

高宗の朝に、此の教を宣傳せし人が存せりと見るは穩當ならざるべし、又た銘の末に記する所によれば、阿羅憾の死するや『卜君宅兆、葬於建春門外、造丘安之禮也』と曰へり、支那に於る祆教が、死尸を扱ふに如何なる方法を以てせしかは今詳らかならざれど、*mazdeism* にては死體は地に埋む可からず、家にも置く可らず、高丘の上に日に面して曝すを以て法とせるものなること、*zend avesta* 中にも見ゆる所にして、唐書波斯傳にも此の風俗を記して『死棄于山』と見ゆ、摩尼教にてもほゞ同様なりしが如く良渚が佛祖統記に二宗教即ち摩尼教に註する所を見れば『二宗者病不服藥、死則裸葬』と曰へり、此の如きはまた此の聖教なるものが此等の兩教の何れにも屬せざるものなるを知るべき一證と爲すに足らむか。墓と稱せずして丘なる特別の文字を用ゐしに就ては、藏石記に考あり、即ち『不曰墓誌、而曰丘銘甚新、有所諱耶、抑小陵曰丘見博雅、丘降於陵一等、書此示寵榮耶、昔人僞異名、如玄堂陰堂神空窆域之類甚鏗、得此又增一例矣』と見ゆ、此の考の當否は余輩の知らざる所なり、されど或はこれ阿羅憾が支那の風習に據らざる特種の形式を以て葬られたるより、其の墳塋に對して丘なる特別の文字を撰ぶに至りしには非るか。

四 爲則天大聖皇后、召諸蕃王、建造天樞、及諸軍立功、非其一也。

武氏后位に上りて策を縱横に講じ、上元元年（六七四）よりは終に高宗を天皇と稱し、皇后を天后と稱し、天下の人之を二聖と稱するに至れり、其中宗を廢して武周の天下を作るや、周德を頌して萬世に伝へんとし、梁王武三思の議によりて、洛陽端門外に碑を建つ、之を天樞となす、舊唐書本紀第六延載元年秋八月の條に『梁王武三思、勸率諸蕃酋長、奏請大徵斂東都銅鐵、造天樞於端門之外、立頌以紀上之功業』と記し、又た同書卷八十九姚璿傳には、『時